



患者向けサービス 「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」

“使う人の気持ち”まで考えて サービスを設計

柳：LifeMark-コンシェルジュのプロジェクト立ち上げ時から参画しています。スマートフォンが普及し、生活インフラになろうとしています。その中で、再来受付や診察呼出などのサービスをひとまとめにしてスマートフォン向けに提供し、患者さんの利便性の向上を図ろうというのが開発の発端です。患者さんの“よろず案内人”になりたいという思いで呼んでいた開発時のコードネームが、そのまま製品名になりました。スマートフォンアプリだからこそその苦労はありましたが、“使う人の気持ち”まで考えて開発したことが、効率化を追求する業務システムとは異なる、LifeMark-コンシェルジュの特異性だと思います。患者さんは年配の方が多いため、スマートフォンは使わないのではという懸念もありましたが、実際に稼働すると高齢の方ほど積極的で、歳を重ね

ても新しいことにチャレンジしようとする姿に感動しました。

富士通だからできる 付加価値の創出をめざして

山本：LifeMark-コンシェルジュは2016年11月にリリースし、複数の病院で稼働を始めています。誰もが利用者になりうるサービスだからこそ、社内外からさまざまな要望や意見が寄せられています。限られたリソースの中で、どの機能を追加・強化し、どのように発展させていくのが、今の課題です。その判断基準のベースとなるのが、「富士通だからできること」ではないかと考えています。私は、大規模病院向けパッケージの開発を経て、3年ほど前からデータ活用系ソリューション開発チームのマネジメント担当となり、それと併せてLifeMark-コンシェルジュも担当するようになりましたが、基幹システムに取り組んだ経験を踏まえて、LifeMark-コンシェルジュにさらな

る付加価値を生み出していくことが自分のミッションだと思っています。

テクノロジーで社会を次の ステージへ

柳：プロジェクト発足当時、同じようなサービスはまだ世の中にありませんでした。スマートフォンが世の中を変えたように、テクノロジーが新しい社会をつくるようになってきている今、社会の次のステージを提案できるようなサービスをつくりたいと考えています。LifeMark-コンシェルジュも、健康寿命の延伸に貢献するようなサービスに成長させたいですね。

山本：医療制度は国によって違いますが、医療費の増大や医師・スタッフ不足、医療ミスなど、ヘルスケアの社会課題は世界共通です。富士通は、その解決のためのリソースを持っているので、社会課題の解決に向けた取り組みを、日本だけでなくグローバルにも展開していきたいと思っています。

富士通だから生み出せる付加価値を
サービス開発に生かしていきます

LifeMark-コンシェルジュを
健康寿命の延伸に貢献するシステムに
育てたいです

山本昌徳

第二ヘルスケアソリューション事業本部
第一ソリューション事業部
マネージャー

常に“正直であること”を心がけています。アウトドアが趣味で、最近、パラグライダーを始めました（高いところは苦手なのに）。



柳 晶子

第二ヘルスケアソリューション事業本部
第一ソリューション事業部

好きな言葉は“神は細部に宿る”。仕事においても人と接する上でも、大事なことだと思っています。